



KAKEHASHI

医療をつなぎ、医療を照らす



オンライン服薬指導で 得られるメリットと実現する条件

◆メリット

- ・ 利便性を求める患者さんニーズに合った医療体験の実現
➡ 僻地だけでなく、忙しいビジネスマンの治療継続や歩行困難な疾患や高齢者への展開
- ・ 薬局外の服薬状況の把握とケアが可能

◆条件

- ・ オフラインも含めだが、患者情報がわからなければ服薬指導の質が極端に下がる（薬剤師側は薬歴などの患者情報の一元化がベースになる）
- ・ 生物学的製剤など冷所保存製品などを運ぶ物流機能の整理
- ・ 服薬指導をしたエビデンス（ログ）に基づく薬剤提供の実現



情報面での条件詳細

薬剤師はトリアージができる医師と違い、飲み合わせのチェックが重要なので患者や薬剤の情報(薬歴)が無ければ適切な指導ができない

患者自身が薬剤情報を管理することが重要だが、何で副作用が起きたかなどは患者自身が判断や入力しきれない可能性がある

医療機関や各薬局間の情報連携をし、(オフラインもだが)オンライン服薬指導しないと、顔を見ただけで安全を守る指導はなかなか難しい

電カルも含め、薬剤情報・アレルギー情報・副作用情報を一元化(連携)できたエリアから実現してみるのが良いと考える